

仙台市議選の結果について——現有議席を維持

2019年8月27日 日本共産党宮城県常任委員会

一、8月25日投票でおこなわれた仙台市議選（定数55）で、日本共産党は青葉区・すげの直子、太白区・さがさだ子、高村直也、泉区・ふるくぼ和子、宮城野区・高見のり子、若林区・庄司あかりの6氏が当選、現有議席数を維持しました。太白区では、国政に挑戦したふなやま由美氏の議席を高村直也氏に引き継ぎましたが、青葉区では共倒れで現職の花木則彰氏、新人の松井秀明氏が落選しました。青葉区で現職の花木則彰市議団幹事長を落選させた問題についてはきちんと総括し、今後の活動に取り組みます。

得票は8人合計で38516票、得票率12・29%を得て、7月の参院選比例票より得票数3036票、得票率4・35%前進しました。

市政与党の立憲民主党は6人、国民民主党は3人、社民党は5人となり、共産党とあわせて16人から20人に前進させ、「『市政与党』議席を伸ばす」（河北8月26日）と評価されました。

自民党は、現職1人が落選し19人が当選しました。公明党は現有9人でした。

日本共産党を支持していただいた有権者のみなさん、猛暑のなか党の躍進のために昼夜をわかつた奮闘していただいた支持者、後援会員、党員の皆さんに心からお礼を申し上げます。

二、選挙活動の特徴について

1、今回の仙台市議選は7月の参議院選挙宮城選挙区で野党と市民の共闘で石垣のりこ参院議員を誕生させたことを踏まえ、「市民と野党」の共同の力で2年前に誕生した郡和子市政をさらに前進させる選挙としてとりくみました。選挙では、日本共産党と野党統一の石垣のりこ参院議員、安住淳衆院議員が党候補の応援に立ったのをはじめ「市民連合@みやぎ」の方々の共同が大きく前進しました。

2、仙台市議選で日本共産党は「希望わく仙台へ4つのプラン」①若者を応援するまち、②子どもを大切にすまら、③高齢者にや

さしいまち、④暮らしを支えるまち）を提案し、プランを実現のための財源もしめました。共産党市議団が長年提案してきた35人以下学級、学校エアコン、国民健康保険料の軽減など市民の声が郡市長のもとで市政に生かされてきました。

3、安倍自公政権は消費税10%増税で、バス・地下鉄・ガス・水道などの料金の値上げをおしつけようとしています。国保料の値上げの圧力をかけています。安倍政治のこんな「地方こわし」と対決し、市民の福祉を守るという自治体本来の役割を発揮することを訴えてたたかいました。

4、選挙戦では、とくに自・共対決の様相が色濃くなりました。2回の参議院選挙、仙台市長選挙で連敗した自民党が大量に候補者を擁立し、次回の選挙で市政の奪還をねらうとともに、今後の県議選、衆院選での足掛かりをつくろうとしました。村井嘉浩県知事、小野寺五典衆院議員はじめ国会議員らを大量に動員しました。出所不明の謀略ピラにたいする反撃もおこないました。

三、今後のとりくみ

仙台市議選の結果をふまえ、市民の皆さんの期待にこたえ、郡市政をささえて市民要求実現に全力をつくします。また、総選挙をふくめ、市民と野党の共闘をさらに前にすすめるために全力をつくします。

宮城県は今後中間選挙が連続します。

仙台市議選と同日投票で富谷市議選がおこなわれ、党は現有2議席を維持しました。大郷町議選も無競争で現有1議席を守りました。

9月1日投票で塩釜市長選挙と同日市議選が行われ、市長選挙には阿部進塩釜地区委員長が党公認で立候補し、市議選は党が現有3議席から4議席をめざします。多賀城市議選で、党は現有4議席を無競争で維持しました。9月1日投票で七ヶ浜町（現有2議席）、利府町（現有3議席）がおこなわれます。9月8日告示、15日投票で角田市議選がおこなわれ党は現有2議席をめざします。

県議選は10月18日告示、27日投票でおこなわれますが、党は仙台市青葉区、太白区、宮城野区、泉区、若林区、石巻・牡鹿、塩釜市、大崎市の有議席を守るとともに、多賀城・七ヶ浜選挙区で新たな議席をめざします。この選挙と同日または連続して、女川、亶理、山元、丸森町議選がおこなわれ、12月の任期満了で涌谷町議選、岩沼市議選が連続します。これらの選挙で全員の当選めざして全力をつくします。

また、今度の選挙を通じ、党の自力をつけることの切実な意義を痛いほど痛感しています。総選挙での勝利・躍進をめざして、党員を増やし、「しんぶん赤旗」読者を増やし、強く大きな党をつくる仕事にただちにとりくむ決意です。

以上



仙台市議選の結果を報告し、今後の決意を述べる候補者のみなさん（8月26日 仙台市）